

E-5 : 専門業務

開催日時・会場 9月20日（木曜日）9:00-10:30 404(4階)

研究基盤を活用した研究戦略立案

大学の財産はなにより「人材」である。大学における研究戦略も独創的な研究者が掲げる研究テーマを核に、拠点構想、資金獲得、人材集積、設備整備が進められてきたのではないか。人の魅力、あるいは、その人の研究テーマが研究者を引きつける魅力となり、優れた研究拠点として発展し、さらにその研究成果が人や研究資金、産学連携などを呼び込む好循環を形成していると考えられる。

しかしながら、「人」だけでなく、独創的な研究インフラ（「研究基盤」）も同様な「魅力」をもっているのではないだろうか。ぜひ、あそこでデータを取りたい、ここでしか、このデータは取れない、と研究者が集まってくる、あそこに行けば何か新しい計測方法の議論ができる、あの装置のあるあそこの研究所とぜひ連携したい、というような話は多いのではないか。

大学等における幅広い研究開発活動を支える「研究基盤」、すなわち「研究設備・機器、測定・分析・加工・解析・飼育技術、研究試料・データベース」などは貴重な経営資源である。経営資源を最大限活用してこそ、最高の研究戦略／経営戦略となる。本セッションでは、先行事例を紹介しつつ、研究基盤のポテンシャルを活かした研究戦略立案の方法についてフロアを交えて議論していく。

（事例の紹介）

- ・研究基盤を核にしたプロジェクト提案-WPI金沢大学ナノ生命科学研究所の事例より
- ・研究基盤を核にしたプロジェクト提案-JSTの事例
- ・“稼ぐ”研究基盤-北大試作ソリューションの事例より

あわせて、大学改革、次期科学技術基本計画を含む、今後の科学技術イノベーション政策についても意見交換を行う。

オーガナイザー



佐々木隆太：北海道大学・創成研究機構
グローバルファシリティセンター・特任助教・副センター長

筑波大学生命環境科学研究科博士課程修了。京都大学農学部、生態学研究センターにて植物の環境応答に関する研究に従事後、2014年から金沢大学にてURAとして勤務。2017年より北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンターに着任し、研究基盤による新たな価値の提供、高度科学技術と社会の関係性と深化のあり方を検証。専門は、生物学、農学、科学社会学。

司会者



中川尚志：
元 科学技術振興機構・研究開発戦略センター・フェロー

2000年科学技術庁入庁
2004年政策研究大学院大学修士卒業(人事院留学)
2005-07年内閣府経済社会総合研究所出向
2009-11年IODP(統合国際深海掘削計画)リエゾン(米国NSF派遣)
2014-16年文部科学省科学技術・学術政策局研究開発基盤課課長補佐
2016年6月-現職 専門は、政策研究(研究基盤、計測技術)、科学技術社会論、科学コミュニケーション、技術リテラシーなど。

講演者



水野 充：金沢大学・ナノ生命科学研究所／
先端科学イノベーション推進機構・特任教授・事務部門長補佐

昭和59年 日本科学技術情報センター(現 科学技術振興機構)入所。文献情報データベースのシステム運営に従事。平成15年より地域事業推進部にてファンディング事業の運営を担当、平成20年よりresearchmap, JREC-IN Portal, J-STAGE, JaLC等情報サービスの企画・運営を実施。平成27年11月より金沢大学にてURA業務に従事、平成29年4月よりRA協議会事務局長、同年10月よりWPIナノ生命科学研究所事務部門長補佐



江端 新吾：内閣府
総合科学技術・イノベーション会議事務局 科学技術政策フェロー
北海道大学 URAステーション 副ステーション長

H21、北海道大学にて博士(理学)を取得。専門は宇宙化学・分析化学。大阪大学博士研究員を経てH23、北海道大学特任助教として宇宙科学研究に従事。H25、URAとして着任。NISTEP客員研究官、第4回URAシンポジウム・第6回RA研究会事務局長、GFC副センター長、及び文部科学省科学技術・学術審議会専門委員を歴任。H29より副ステーション長、総合IR室室長補佐を兼務。H30より現職。